回帰する住宅地

- 記憶を繋留する住まい -

武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科 4C12 進藤絢香

計画地の分析結果

エリアA

・弥生時代から人々が暮らし生活していた。
・食品店、学校、病院など、時代と人々の暮らしのニーズに対応し続け、様々な施設が点在している。

↓

世代間で住宅が受け継がれる住宅地として更新し続けるエリア

エリアB
※自邸がある

・丘陵地が1970年代に住宅地として、開発された。
・1980年代~1990年代にかけて、戸建て住宅が急速に建設され、住民の世代構成が均一。
・かつての若い夫婦の高齢化や成人した子供たちの流出により、少子高齢化が目立つ。

↓

住宅地としての更新が見込めないエリア

↓

住宅地であった記憶を残しながらかつての緑が生い茂る場へと回帰する。

計画の背景

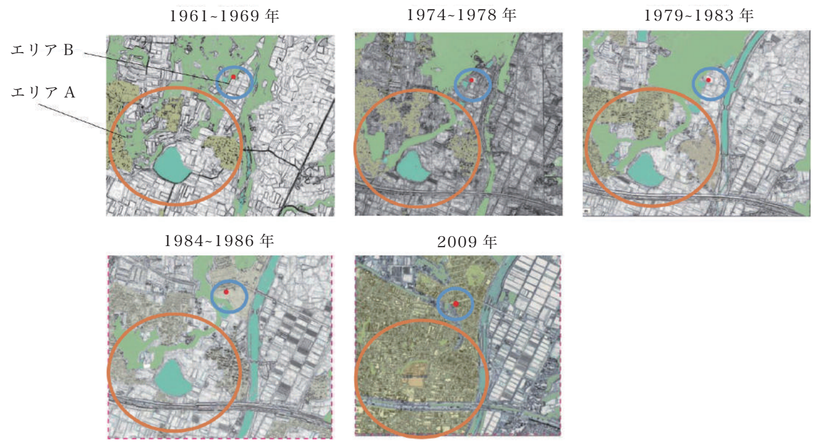
＜社会的背景＞
・日本の住宅の短命さ
・住宅地の高齢化、衰退化
・建物のストック活用志向の広がり

＜計画地＞
▪ 計画地：兵庫県神戸市西区玉津町
私が暮らす自邸と自邸がある住宅地

＜計画地の歴史と現状＞
・近畿地方でも早くから弥生文化を持ち、水田を開拓していた地にある丘陵地であった。
・1970年代に丘陵地は住宅地として開発が進められる。
・現在では、西区内でも特に少子高齢化が進み、空き家が増えつつある地区となっている。

計画地の分析

▪ 街の移り変わり



▪ 色彩表示

自邸　住居地域　エリアA
緑地　田畑　エリアB
川や池

自宅での空間体験

幼少期の自宅での空間体験

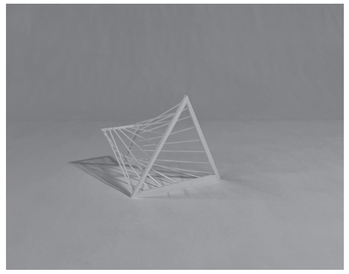
＝住まいとの独特な向き合い方・人の記憶に残り続ける原風景（心象風景）

→住宅プランの中に空間エレメントとして盛り込む。

→住み手の生活の痕跡が蓄積され続ける住宅を記憶の繋留地として捉え

住民がいなくなってからも暮らしの記憶を世代を超えて

共有し続けられる「生き続ける家」を提案する

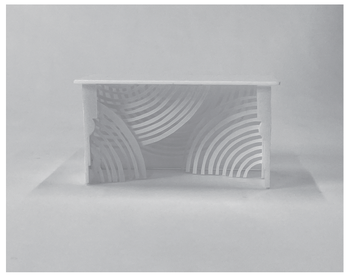


1. 空間スケールの認知の変化

幼児の頃によく利用していた一室に小学 3 年生になって久しぶりに入ってみると，空間がとても狭く感じた。空間認知の感覚に大きなギャップが生まれたことへの驚き，かつ自身の身体的な成長を実感した体験であった。

2. 夏の床の思い出

夏の暑い日には，冷たい床に寝転ぶのが好きだった。床に耳を当てるようにして横たわると，床の上の埃を間近に見られたり，家族の生活音が床を介して聴こえてくることがとても新鮮に感じ，床の下に異なった空間が存在する感覚に陥った。

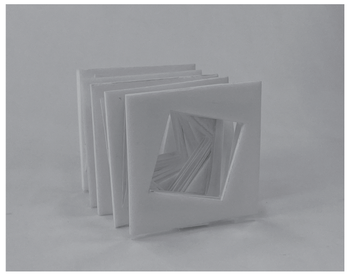


3. ダイニングテーブルの下での思い出

テーブルの下の空間は，私と妹専用の小さな家としてままごとがよく行われる場所であった。しかし，この空間は持ち込む遊び道具を厳選しなければならないほどの狭さであったため，少ない道具を使い，互いに想像力を働かせて情景を共有しながら遊んでいた。私たちが想像力を存分に膨らませていた特別な空間であった。

4. 雨の日の秘密基地

雨の日は，玄関の前で家族の傘を重ねて小さな秘密基地を作り，籠っていた。柄のたくさん入った鮮やかなナイロンの傘が重なり合ってできる不思議な色味を内側から眺めたり，雨が滴る跡を観察することが楽しかった。身体が小さい頃にしか得られない体験である。

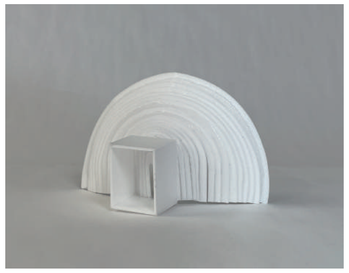


5. こわい部屋

自邸内には感覚的に怖いと感じる部屋が一つあった。
怖いのに常に気になる存在で，遠くからその部屋の扉を凝視してしまうことが多かった。恐怖心と好奇心が交錯するモヤモヤとした感覚だった。

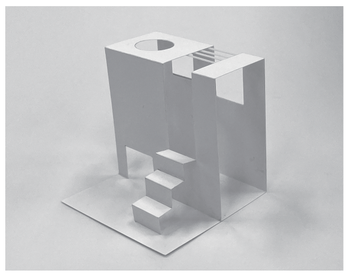
6. 熱が出た夜の天井

熱が出る度に不思議な感覚に陥ることが多かった 。自身の身体が大きくなったり小さくなったり，天井の木目が迫ってきたり引っ込んだり，グニャグニャと浮遊する感覚だった。小学生高学年のあたりからこの感覚は消えたが，現在も時々蘇ってくる気味の悪い感覚だ。



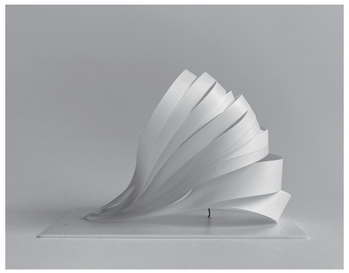
7. 押入の思い出

当時読んでいた絵本の影響を受け，押入をエレベーターに見立てて遊んでいた。テーブルの下での体験同様，互いの想像の世界で楽しむという，今はもう簡単にできない遊びである。



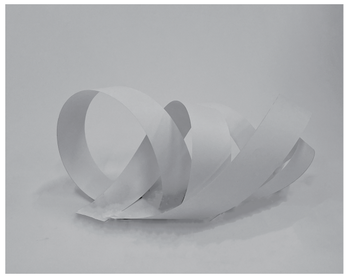
8. 家中遊具

当時は，階段があれば，段を誰が一番飛ばしてジャンプできるかを友達と競争したり，壁があれば．壁をつたって上まで登ったりして遊んだ。
幼少期の私の目には，自宅の至る所が遊具のように見えていた。



9. カーテンの思い出

カーテンに包まれるだけでできる空間は，私のお気に入りの場所であった。カーテンの中は，庭からの陽だまりの温もりを感じたり，床に映った揺れるカーテンの影から風を感じたり，自然と触れ合える優しい空間となっていた。



10. 裏庭を発見した日

庭を探索していた時に初めて裏庭の存在を知った。その場所は，ブロック塀で囲われ冷たい砂が積もっただけの空間であったが，家族の温もりを感じていた住まいのイメージとは対照的な陰気な空気が漂う異質な空間の存在に，衝撃を受けたことが印象に残っている。

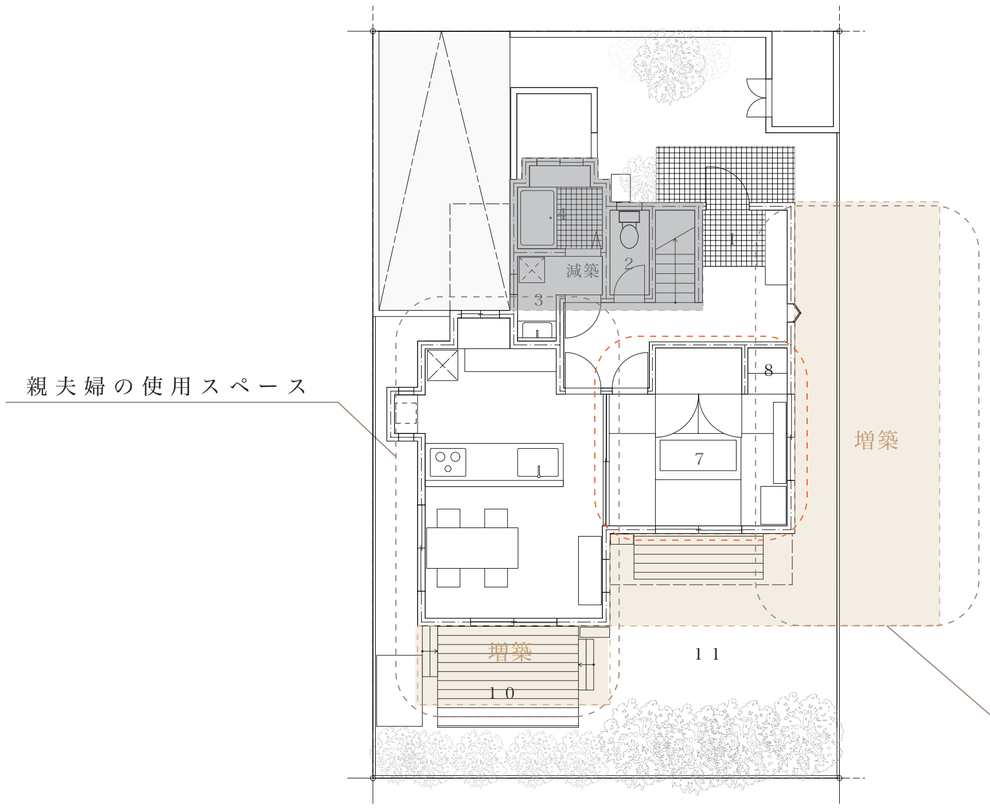
現 在 の 実 家

私が生涯、今の家で暮らし続けると仮定。
4 つのライフステージにおけるリノベーション計画の中に幼少期の心象風景を反映。

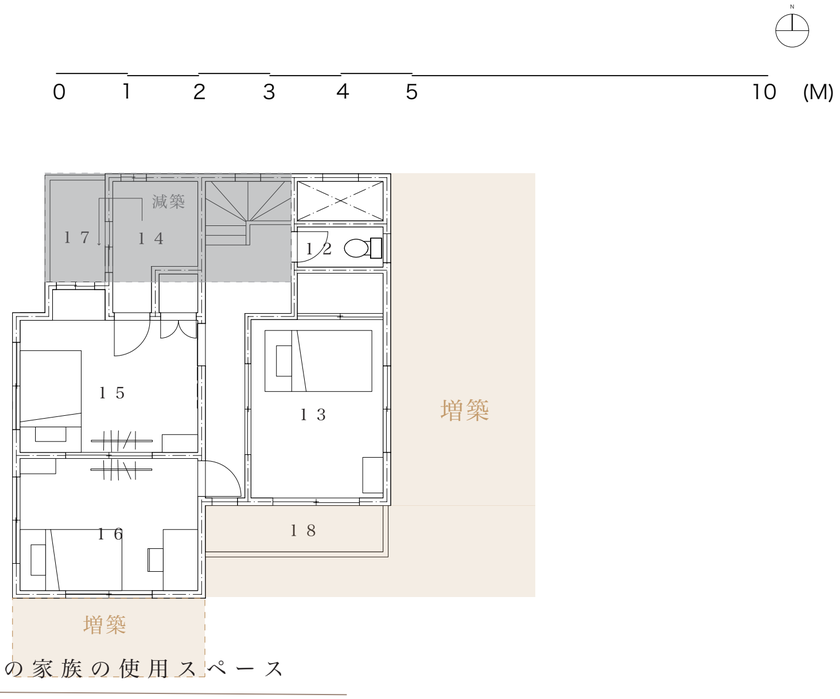
＜今後訪れると考えられるライフステージ＞		＜各ライフステージにおける設計コンセプト＞
①結婚する		
②第一子の誕生	➡	私の幼少期の心象風景を、私の子どもが追体験する住まい
③上の子が小学校入学		
④上の子が中学校入学		
⑤下の子が大学進学		
⑥孫の誕生	➡	私と私の子どもの幼少期の心象風景を私の孫が追体験する住まい
⑦両親の死	➡	私と私の家族の思い出が刻まれた住まい
⑧夫の死	➡	私と家族の心象風景を象徴する空間エレメントが元住宅地で
⑨私の死 (住宅地が緑へ還る)		あった森の中にオブジェとして残る

＜現在の自邸＞

現在の和室にあたる部屋を住宅の中心となるように，減築と増築を行う。
住宅の中心部は，親夫婦と私たちの家族がともに食事をとる共有空間とする。1 階の西側を親夫婦が使用する空間，1 階の東側と 2 階を主に私たちの家族が使用するスペースとし，適度な距離感を保ちながらも，家族とのかけがえのない思い出が更新し続けられる二世帯住宅を計画する。



1 F　平面図

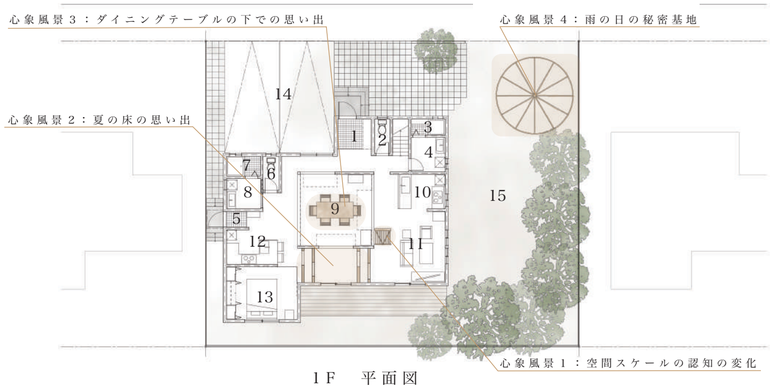


2 F　平面図

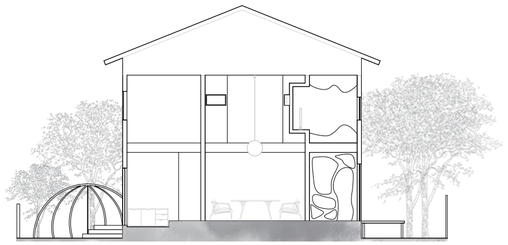
1. 玄関
2. 便所
3. 洗面所
4. 浴室
5. キッチン
6. リビング
7. 和室
8. 床の間
9. 駐車場
10. テラス
11. 庭
12. 便所
13. 父の部屋
14. WIC
15. 母の部屋
16. 私の部屋
17. バルコニー 1
18. バルコニー 2

1. 第一子の誕生

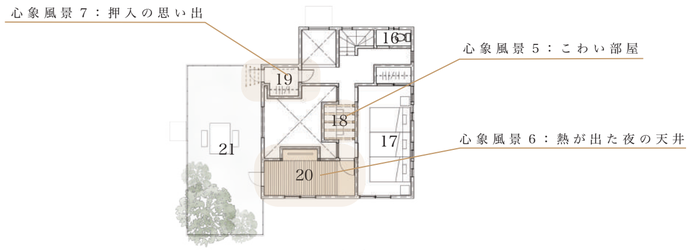
1. 玄関１ 2. 便所１ 3. 浴室１ 4. 洗面所１ 5. 玄関２ 6. 便所２ 7. 浴室２ 8. 洗面所２ 9. ダイニング 10. キッチン 11. リビング
12. キッチン・カウンター 13. 親夫婦の部屋 14. 駐車場 15. 庭 16. 便所３ 17. 主寝室 18. デスクスペース 19. WIC
20. シアタールーム 21. 屋上庭園



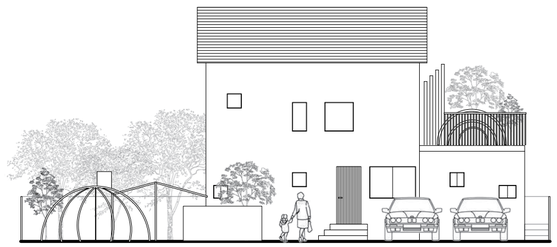
１Ｆ　平面図



断面図



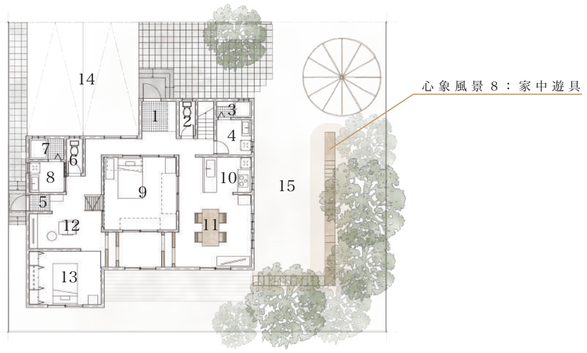
２Ｆ　平面図



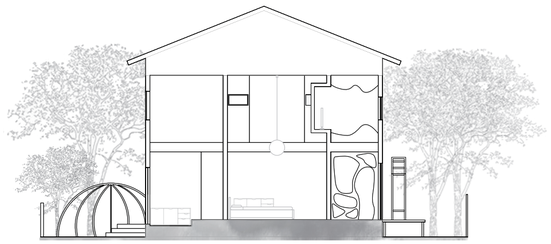
北面立面

2. 孫の誕生

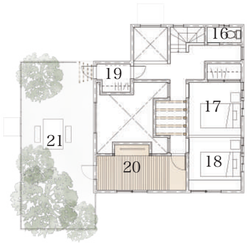
1. 玄関１ 2. 便所１ 3. 浴室１ 4. 洗面所１ 5. 玄関２ 6. 便所２ 7. 浴室２ 8. 洗面所２ 9. 親の部屋（介護用） 10. キッチン 11. リビング 12. リビング２
13. 親の部屋 14. 駐車場 15. 庭 16. 便所３ 17. 私の部屋 18. 夫の部屋 19. WIC 20. シアタールーム 21. 屋上庭園



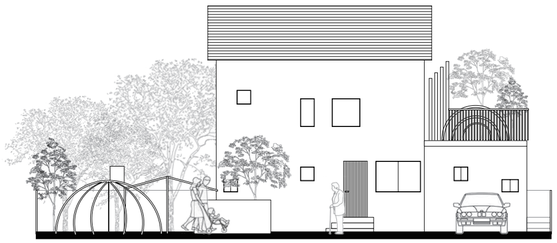
１Ｆ　平面図



断面図



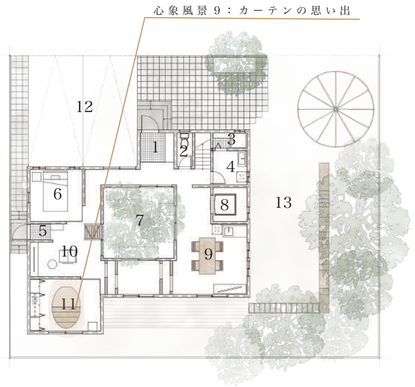
２Ｆ　平面図



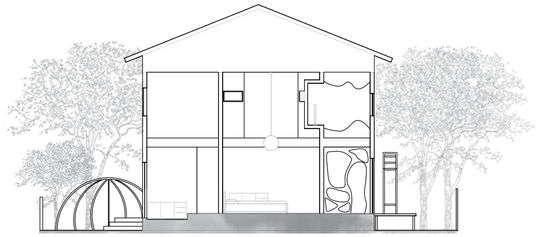
北面立面

3. 夫の死

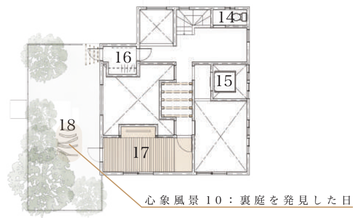
1. 玄関１ 2. 便所１ 3. 浴室１ 4. 洗面所１ 5. 玄関２ 6. 介護者の部屋 7. 中庭 8. エレベーター 9. リビング・キッチン
10. リビング 11. 私の部屋 12. 駐車場 13. 庭 14. 便所２ 15. エレベーター 16. WIC 17. シアタールーム 18. 屋上庭園



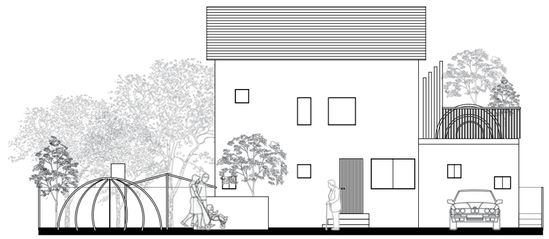
１Ｆ　平面図



断面図



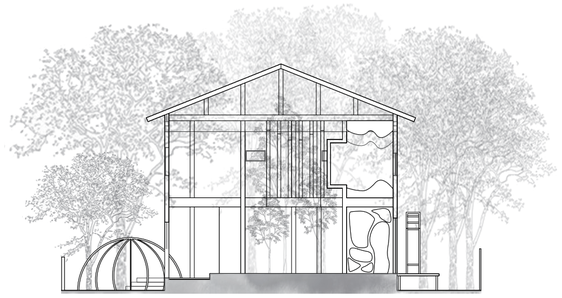
２Ｆ　平面図



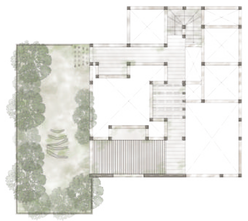
北面立面

4. 私の死

１Ｆ　平面図



断面図

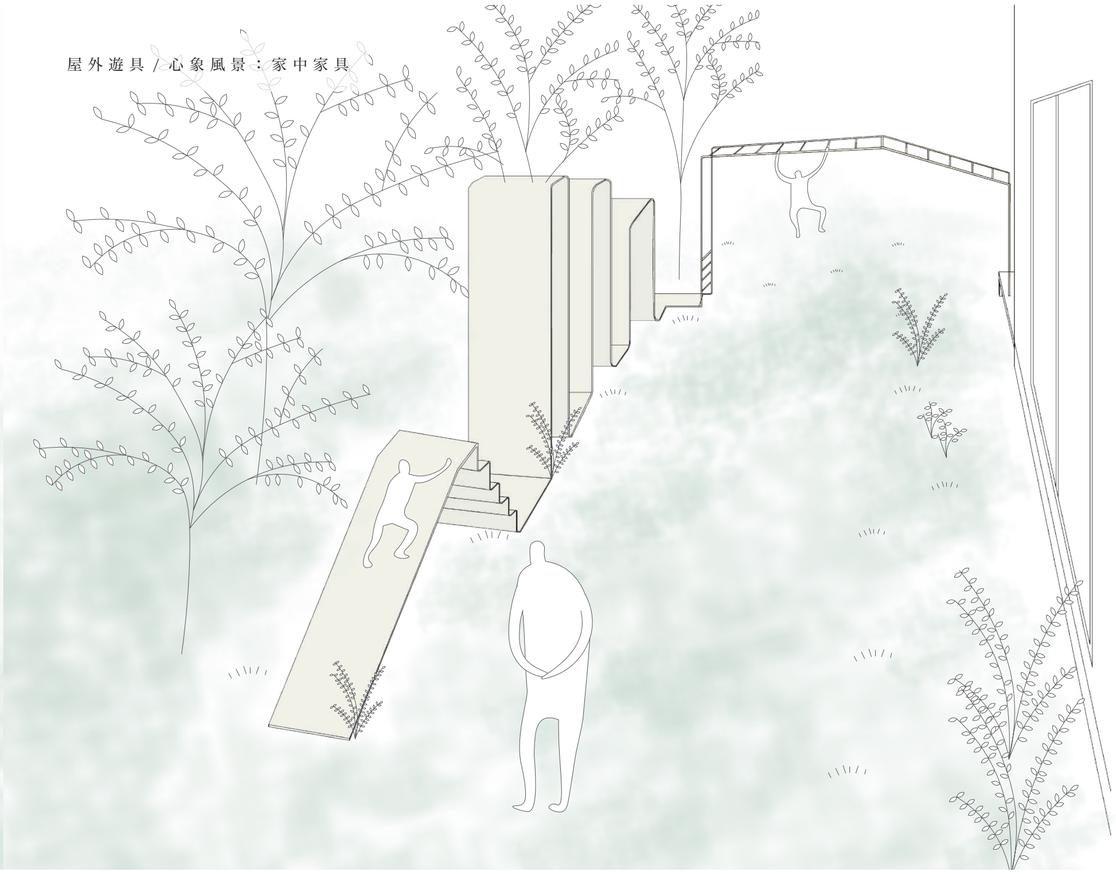


２Ｆ　平面図

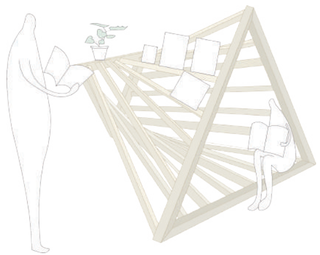
北面立面

各空間エレメント

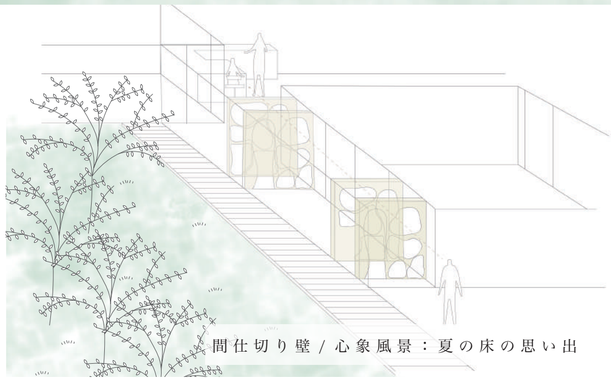
亡くなった家族との記憶を残す場 / 心象風景：裏庭を発見した日



屋外遊具 / 心象風景：家中家具

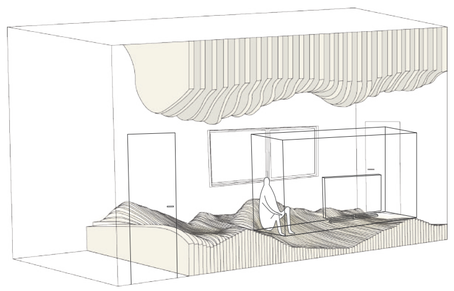


マガジンラック / 心象風景：空間スケールの認知の変化

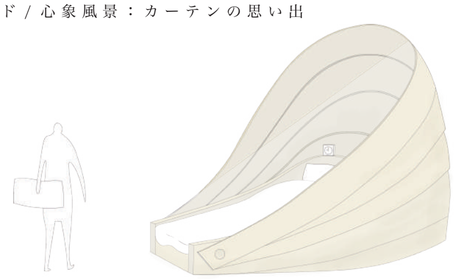


間仕切り壁 / 心象風景：夏の床の思い出

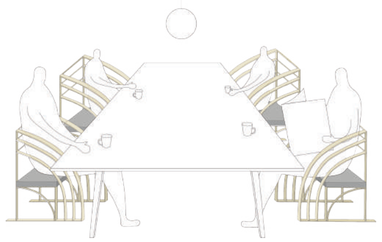
シアタールーム / 心象風景：熱が出た夜の天井



ベッド / 心象風景：カーテンの思い出

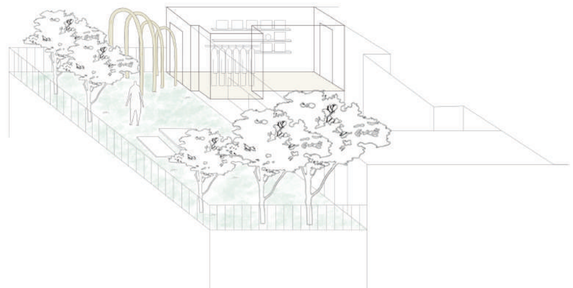
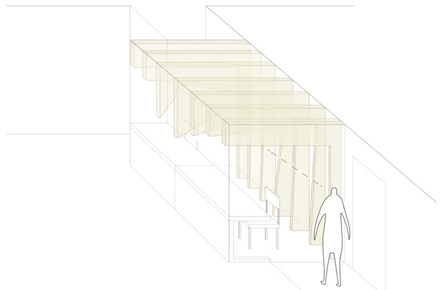


ドームハウス / 心象風景：雨の日の秘密基地



ダイニングチェア / 心象風景：ダイニングテーブルの下での思い出

ウォークインクローゼットとゲート
/ 心象風景：押入の思い出



間仕切り壁 / 心象風景：こわい部屋